

○ 授業動画に係る指導及び助言

～美郷町立美郷南学園8年 主題名：ふるさとを思う心 教材名『私の町』～

宮崎県教育庁南部教育事務所教育推進課 指導主事 川崎 優也

1 子どもが「考え」「議論する」ための指導方法の工夫について

【板書の工夫】

- ・ 登場人物の心情を押さえる箇所、教材に関連した生徒それぞれの考えが表れた箇所、ねらいに迫る生徒の考えが表れた箇所と工夫されており、分かりやすく見やすいものとなっていた。

【発問の工夫】

- ・ 生徒の実態やこれまでの学習をしっかりと把握した上で、「美郷に住んでてちょっといやだなんて思うところある?」「もうちょっとこうなってほしいことは?」「もうちょっとこうなってほしいというところもあるけど、やっぱりいいところはどんなところ」などの考えやすい問いかけにより、生徒が本音で語っていた。

【終末の工夫】

- ・ 2人の地域の方のインタビュー動画の視聴は、地域の方のふるさとに対する思いや生徒達へ向けたメッセージに溢れるものであり、生徒は余韻に浸りながらふるさとを思うことについて考えていた。

2 ねらいに関する児童（生徒）の姿について

展開前段では、将来的にどういう所に住みたいかという発問に対し、利便性という点で田舎が良いか都会が良いかを考えていたが、展開後段の発問をきっかけにふるさとに根づくものについて自然と考えを移行させていた。終末の動画にスムーズに結び付き、まだ気づけていないふるさとのよさについて考える生徒や他者の考えをもとにふるさとのよさについて考える生徒、ふるさとを大事にしたいと考える生徒、ふるさとのために自己に何ができるか考える生徒などの姿が見られた。

3 指導及び助言

- ・ スケールチャートを用いることで、生徒は自他の考えを可視化して捉えることができていた。授業者にとっても、全ての生徒の考えを把握する手立てとなっていた。生徒の気持ちや、なぜ100%のところではなく真ん中付近にあるのか、それぞれの生徒の貼ったプレートの位置が微妙にずれている違いは何かなどについて、深く掘り下げるとさらに多様な考えや価値観に触れることができたのではないかと考える。
- ・ インタビュー動画を使用する手立てが、間接的に地域の方との対話を実現するとともに、自己内対話をじっくりと行うことにつながっていたと感じる。また、生徒はペアでの話し合いをスムーズに行っていたことから、日頃の道徳科の授業での伝え合う力を高める取組がうかがえた。一方で、導入のニュース映像の視聴時間が長く感じた。祭りの様子を想起させるという目的であれば、半分くらいの長さにして、その分を他者との対話の時間に充てたり、異なるペアで話し合う時間に充てたりすると、より自己の生き方について考えを深めることができたのではないだろうか。